令和３年３月１７日

保護者 様

京都市立岩倉南小学校
校　長　石田　和三

学校教育目標の実現に向けて
～アンケートをもとにした「自己評価」と「学校関係者評価」～

岩倉南小学校では，学校教育目標の実現に向けて，「思いやりのある子（徳）」「自ら進んで学ぶ子（知）」「体を大切にする子（体）」のそれぞれにおいて重点目標を設定し，具体的な取組を進めています。

また，目標の達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について教職員自身が行う「自己評価」と，学校運営協議会が，自己評価の結果について評価する「学校関係者評価」を実施し，それらの結果を家庭，地域と共有することで，教育活動の改善と発展を目指しています。

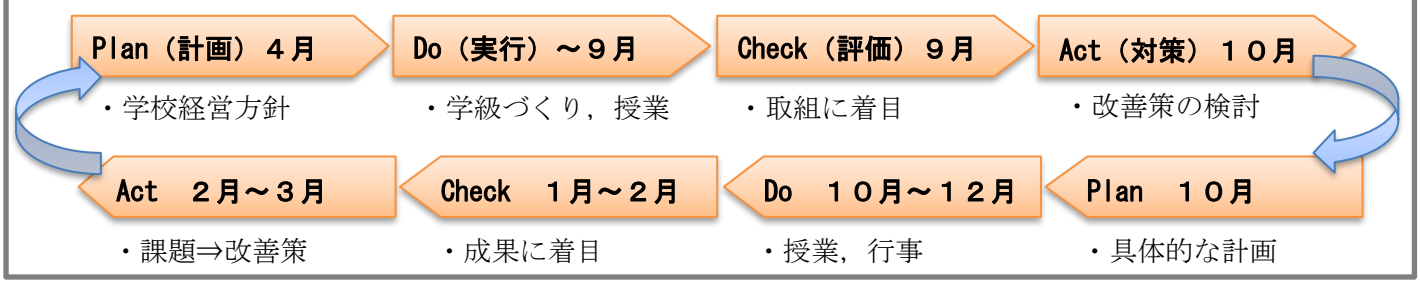
自己評価の評価項目・指標は，次の２つに大別できます。

① 目標の達成状況を把握するための（成果に着目する）もの
② 達成に向けた取組の状況を把握するための（取組に着目する）もの

今年度は，
- ６月の学校再開から今日までを振り返り，目標の達成に向けた取組の状況を把握・整理する
- 整理結果をもとに，これまで進めてきた取組が適切かどうかを評価する
- それらを踏まえて今後の改善策を検討し，２学期の取組に反映させる
- ２学期末を区切りの時期として，アンケートを実施し目標の達成状況を把握・整理する

という流れで，学校評価を実施しています。

学校評価のイメージ



前回は，自己評価の手がかりとして，子どもたちが，学習や生活の中で書いた「振り返り」の中から，重点目標や具体的な取組に関するものを「子どもたちの声」として抜き出しました。

今回は，１２月に実施したアンケートを手がかりとして，取組の成果について検証します。

なお，児童１人につき１枚の保護者アンケートをお願いしたところ，858 名中 831 名分のアンケートが集まり，回収率は 96.9%でした。

また，自由記述覧にもたくさんのコメントをいただきました。

そのうち，ミニ運動会と音楽発表会に関するものについては，特集号でお伝えしている通りです。

また，学校教育活動に関するもののうち，お答えしたりすぐに生かしたりできるものについては，個人懇談会や学年・学級だよりでお伝えしたり，日々の教育活動の中に取り入れたりして，教育活動のさらなる向上を図っています。

アンケートへの回答にご協力いただき，本当にありがとうございました。

学校の自己評価の結果

思いやりのある子（徳）

【重点目標】

「自他を大切にする態度」「公共の精神に基づく態度」の育成

【前期の学校評価を踏まえた後期の取組】

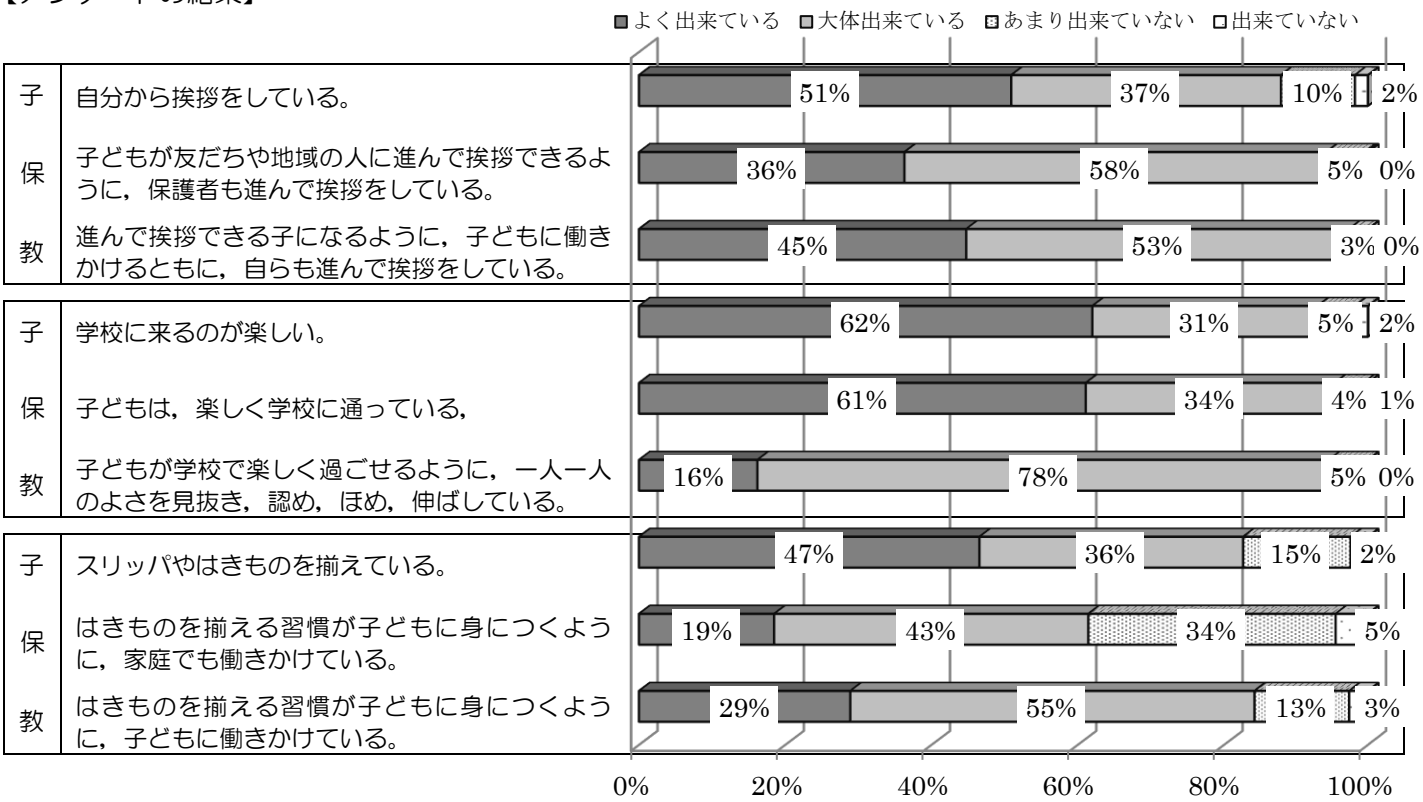
□「自分から挨拶をできるようになりたい」と思う子たちが，いつでも一歩踏み出せるように，挨拶に溢れた環境をつくる。

□挨拶をきっかけとしたコミュニケーションを図り，子どもたちが「挨拶をしてよかった」と実感できるようにする。

□挨拶に向けて一歩踏み出すための支えとなる「心の安全基地」も，学校生活全体の中で育んでいく。

□支え合い高まり合う集団をつくるために，教師が子どもたち一人一人のよさを的確に「見抜き」「認め」「ほめ」「伸ばす」ようにする。

【アンケートの結果】



【アンケートの分析と次年度に向けて】

◇　挨拶に溢れた環境をつくること，「挨拶をしてよかった」という実感を子どもたちが味わえるようにすることを後期の取組の方針としました。しかし，挨拶についての取組を尋ねたアンケートでは，「よく出来ている」と答えたのは教職員の４割強で，保護者は４割を下回りました。また，子どものアンケート結果を見ても，前年度からの改善傾向は見られませんでした。「進んで挨拶ができる子を育てる」「自分から挨拶する習慣をつける」ことを目指していますが，そもそも，わたしたち大人は，本当に「挨拶」を大切なものとして捉えているでしょうか。教職員も，今一度，自分たちを見つめ直してみたいと考えています。

◇　一歩踏み出すための「心の安全基地」を，学校教育全体を通して育んでいくことを，後期の取組の方針としました。ですが，教職員から見ると，子どもたちの「失敗を恐れずに踏み出す力」や「自ら考え挑戦する力」はまだ弱いように見えます。

◇　アンケート結果や子どもたちの姿をもとに，「思いやりのある子」の育成に向けての課題と，改善のための方針や取組についての対話を教職員で重ねています（１月末から始まり現在も進行中です）。その中で浮かびあがってきたキーワードは「関係づくり」です。教職員と子ども，子どもと子ども，教職員と教職員の関係の質がよくなれば，その中で生まれる行動やその結果の質も上がります。例えば，お互いがよりよい関係であれば，「挨拶をしたい」という気持ちも芽生えるでしょうし，挨拶を通してさらに関係がよくなることも考えられます。同様に，お互いの関係がよければ，安心して一歩踏み出すこともできるかもしれませんし，その一歩を通して，さらに関係がよくなるかもしれません。今年度の取組と子どもたちの姿を踏まえて，次年度は，人間関係づくりにさらに重点を置いた取組を考え，トライしていきます。

学校の自己評価の結果

自ら進んで学ぶ子（知）

【重点目標】

学習意欲を高める授業を通して，自ら学びに向かう力を育てる

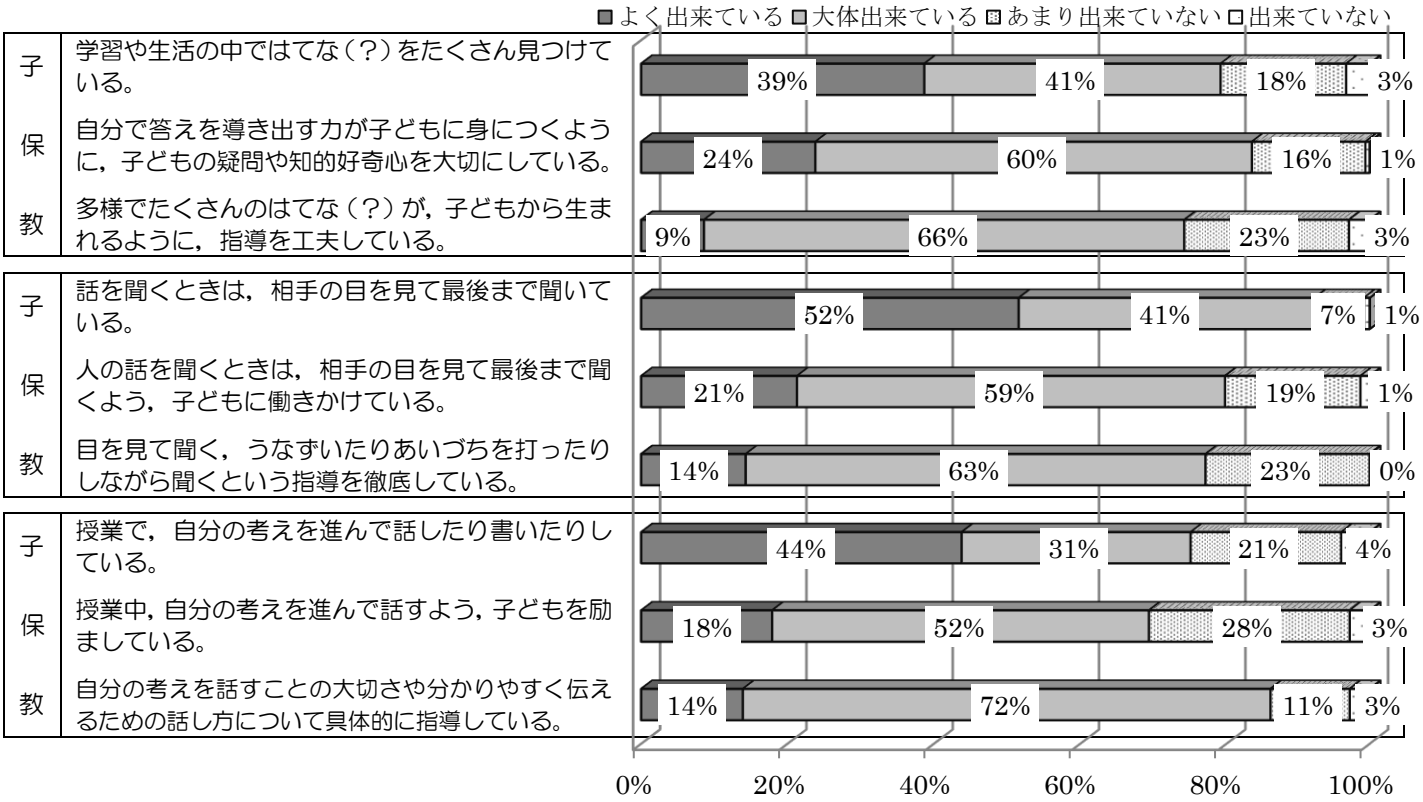
【前期の学校評価を踏まえた後期の取組】

□学習を振り返ることによって，「なぜ，何のために，教え合うのか」「そのことを通してどんな力がついたのか」「一人一人も学級もどのように成長してきたのか」を，教師も子どもも，体験的に理解できるようにする。

□子ども主体の授業の質を高めるために，子どもたち相互の人間関係づくりも含めた授業改善に取り組む。

□こたえを教える前に，まずは，子どもの中に「どうなっているの？」「気になる！」「なぜ！？」という問い（はてな）が生まれるような授業のしかけや進め方，教師の言葉かけを研究していく。

【アンケートの結果】



【アンケートの分析と次年度に向けて】

◇　子ども同士で教え合う時間，子どもに任せる時間を学習の中で保障するようにしてきました。それによって，子ども自身が課題を設定したり，課題の解決に向けての方法を試したり，試したことを振り返って次につなげたりするようになってきています。また，学習の振り返りを子どもにフィードバックしたり，学級全体で共有したりするようにしてきました。それによって，友だちの学び方を参考にして課題を解決したり，学び方を次の単元に生かしたりしようとする姿が増えてきました。

◇　「子どもからでてきた問い」「子どもの素朴な問い」を大切にした授業づくりを進めてきました。ですが，「学習や生活の中ではてな（？）をたくさん見つけている」「多様でたくさんのはてな（？）が子どもから生まれるように，指導を工夫している」という質問に対して「よく出来ている」と答えた子は全体の４割弱，教員は１割未満であり，子どもたちの姿としても実感としてもまだ伸びる余地があります。

◇　子ども主体の授業の質を高めるために，子どもたち相互の人間関係をよりよいものにしていくことに重点を置いてきました。ですが，話の聞き方の指導に関する質問に対して，２割強の教員は「あまり出来ていない」と答えています。人間関係づくりにおいて，コミュニケーションが果たす役割の重要性を，教員自身が十分に理解したうえで，より効果的な指導ができるように，教員の学びも続けていきます。

◇　次年度に向けてのキーワードは「授業力の向上」です。授業を通して子どもたちにどのような力を育むのか，そのためにはどのような授業が必要なのか，その授業を実現するために教師はどのように学んでいくのか，を明確にしたうえで，教員の授業力向上に取り組みます。

学校の自己評価の結果

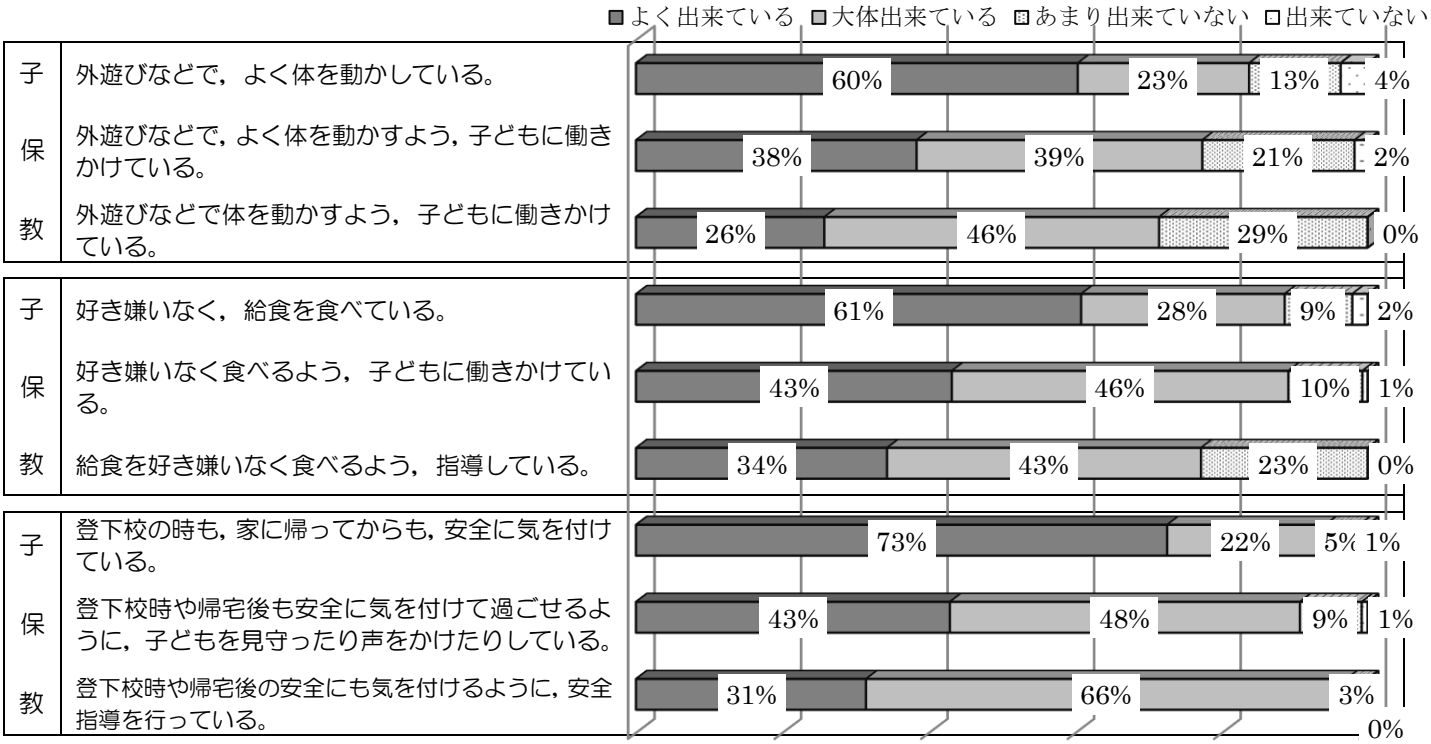
体を大切にする子（体）

【重点目標】

安心・安全第一の学校づくりを目指した取組を推進する。

【前期の学校評価を踏まえた後期の取組】

□安全教育の推進にあたっては，子どもたちの不適切な行動を注意するだけでなく，子ども自身が立ち止まって考えられるような声かけや問いかけをしていく。



【アンケートの分析と次年度に向けて】

◇　登下校の安全について尋ねたアンケートでは，子どもたちの９割以上が「安全に気を付けている」と肯定的に答えています。しかし，登下校の姿を見ていると，横断歩道で左右の安全や信号を確認せずに渡ろうとしたり，車道に広がって歩いたりする姿が見られます。子ども自身が立ち止まって考えられるような取組がまだ足りないと実感しています。

◇　外遊びについては，ソーシャルディスタンスが叫ばれ，触れ合う遊びなどを進められない分，教員は外遊びの声かけがしにくくなりました。そのことはアンケートの結果に影響しているかもしれません。一方で，子どもたち自身が計画した大縄大会に向けて，休み時間になると，運動場で自主的に練習に励む子どもたちの姿が今も見られます。体を動かすだけでなく，自分たちで目標を決めて，その実現に向けて取り組むという面でプラスの経験になっているようです。

◇　「体」を大切にすることについては，基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成，外遊び・運動の推奨，将来につながる食生活づくり，「自分ごと」としての学校安全に，引き続き取り組んでいきます。

「学校関係者評価」の結果（学校運営協議会理事の方々からのご意見）

- 子どもの肯定的な回答が，保護者・教職員のそれに比べて圧倒的に高い。それだけ，子どもたちが南小の空気や雰囲気に満足していることの表れととらえることもできるのではないだろうか。
- 「マスク越しの自分からの挨拶」は，以前にも増してハードルが上がっていると思う。目だけでは，相手の表情が読みにくく，こちらの声もマスクで届けにくい。マスクを外して挨拶できるようになった時に，「よく出来ている」の割合がぐんと上がっていることを期待したい。
- ２％の子どもが「学校が楽しくない」と感じ，１％の保護者が「子どもは楽しく学校に通えていない」と感じているということが大変気になる。コロナ禍で不登校になってしまう児童生徒が全国的に増加していると耳にするが，どうすれば，この数字を０にできるのか。学校は安心安全な場だと理解してもらうにはどのようにすれば良いか，保護者と学校が協力して取り組んでいかなければならないと思う。
- コロナ禍で，前例踏襲ではなく自ら考えて実行することが求められる世の中になった。学校内での活動は，むしろ進んでいると感じている。学校での事例を地域に見える化していただくことで，「小学校に学ぶ地域」という新たな構図にもトライしていけると感じている。ジェンダーや年齢を超え，互いに良い影響を与え合うシステムをつくりたい。